

学生・教職員 双方のための学修支援のあり方

第5班

京都文教大 垣鍋 祐介
 上智大学 成田 靖
 同志社女子大学 今村 寛功
 中部学院大学 片岡 清二
 長崎ウエスレヤン大学 片山 徹也
 金城学院大学 戸田 保
 獨協大学 鈴木 裕美
 日本システム技術株式会社 磯谷 有紀

各大学の学生カルテ・学生ポートフォリオの導入状況

- 京都文教大学
 - 学生カルテについては必要性を感じてはいるが導入計画はない。
 - 学生カルテ、学生ポートフォリオとも調査段階。
 - これらのシステムについて学内では慎重な意見が多くコンセンサスを得るのが難しい。
- 上智大学
 - 学生カルテ、学生ポートフォリオとも導入計画はない。
 - 文科省の教育指針により必要性があると認識はしている。
 - 手取り足取りの指導が自立性を阻害するのではないかと懸念がある。
- 同志社女子大学
 - 学生ポータルについてワーキンググループを作り、その機能について検討している。
 - 学生カルテの導入については検討段階
- 中部学院大学
 - GP テーマBが採択され、その取り組み内容に学生ポートフォリオと学生カルテの導入がある。
 - 学生カルテが就職のニーズと学生のシーズのマッチングのため、学生ポートフォリオは学習履歴の蓄積のために導入検討中。
 - 学生ポートフォリオについてはある程度の形ができてきたが、学生カルテについては検討段階。
- 長崎ウエスレヤン大学
 - GP テーマBが採択され、その取り組み内容に学習ポートフォリオとティーチングポートフォリオの導入がある。
 - 学習管理システムとして学習ポートフォリオとティーチングポートフォリオを活用予定で導入検討中
 - 学生カルテについては小規模ながら実施したが、情報の一元化や更新がきちんと行われず頓挫した経緯がある。
- 金城学院大学
 - GP テーマBが採択され、その取り組み内容にキャリアカルテの導入がある。
 - 就職支援を目的としてキャリアカルテの導入検討中
 - 導入済みのMoodleには学習ポートフォリオ機能があり、運用中にある。(Moodleの利用教員数は30人程度)
- 獨協大学
 - GPテーマAが採択され、その取り組みにLMSの導入がある。
 - GPとは別に学生サービス向上を目的として学生ポータル導入計画が進んでいる。
 - それらの中に学生カルテ、学生ポートフォリオ機能が含まれることが想定されるため調査をしている。

各大学の学生カルテ・学生ポートフォリオの導入状況

- 京都文教大学
 - 学生カルテについては必要性を感じてはいるが導入計画はない。
 - 学生カルテ、学生ポートフォリオとも調査段階。
 - これらのシステムについて学内では慎重な意見が多くコンセンサスを得るのが難しい。
- 上智大学
 - 学生カルテ、学生ポータルについて文科省の教育指針に手取り足取りの指導が自立性を阻害するのではないかと懸念がある。
- 同志社女子大学
 - 学生ポータルについてワーキンググループを作り、その機能について検討している。
 - 学生カルテの導入については検討段階
- 中部学院大学
 - GP テーマBが採択され、その取り組み内容に学生ポートフォリオと学生カルテの導入がある。
 - 学生カルテが就職のニーズと学生のシーズのマッチングのため、学生ポートフォリオは学習履歴の蓄積のために導入検討中。
 - 学生ポートフォリオについてはある程度の形ができてきたが、学生カルテについては検討段階。
- 長崎ウエスレヤン大学
 - GP テーマBが採択され、その取り組み内容に学習ポートフォリオとティーチングポートフォリオの導入がある。
 - 学習管理システムとして学習ポートフォリオとティーチングポートフォリオを活用予定で導入検討中
 - 学生カルテについては小規模ながら実施したが、情報の一元化や更新がきちんと行われず頓挫した経緯がある。
- 金城学院大学
 - GP テーマBが採択され、その取り組み内容にキャリアカルテの導入がある。
 - 就職支援を目的としてキャリアカルテの導入検討中
 - 導入済みのMoodleには学習ポートフォリオ機能があり、運用中にある。(Moodleの利用教員数は30人程度)
- 獨協大学
 - GPテーマAが採択され、その取り組みにLMSの導入がある。
 - GPとは別に学生サービス向上を目的として学生ポータル導入計画が進んでいる。
 - それらの中に学生カルテ、学生ポートフォリオ機能が含まれることが想定されるため調査をしている。

学生カルテ	運用中	0 校
	導入予定	3 校 (全校ともGP採択による)
	導入検討中	3 校
	導入実績あり	1 校
学生ポートフォリオ	運用中	1 校
	導入予定	3 校 (全校はGP採択による)
	導入検討中	3 校
	導入実績あり	0 校

検討中。

学生カルテの定義

そもそものカルテとは・・・

- ◆ 病院で医師が患者の病気を治すために、その症状や治療経過を記録する。
- ◆ 教育機関では問題のある学生の早期発見、対応をして重症化することを目的として、学生の基本データやカウンセリング内容を記録する。



- ▶ 教職員が学生に対してのサポートを効果的に行う
- ▶ 何らかの問題や課題への対応を前提にしている
 - 学修や生活に関する問題へのサポート
 - 就職に関する問題へのサポート
- ▶ 記録する情報は・・・
 - 学生の基本情報 (基幹システムとの連携)
 - 学生個人情報、入試記録、履修記録、出席情報、成績、休退学情報、健康診断結果、奨学金情報など
 - 面接の記録
 - 個人的な特記事項、コメント、所見など

- 教職員が必要とし主体のシステム
- 入力主体は教職員
- 教職員から学生へのサポート
- 自立までを支援する

学生カルテの定義

そもそものカルテとは…

- ◆ 病歴
- ◆ 教育の基

ネガティブシステム (学生救済型)

学生

体のシステム

- ▶ 教
何らかの問題や課題への対応を前提にしている
 - 学修や生活に関する問題へのサポート
 - 就職に関する問題へのサポート
 - ▶ 記録する情報は…
 - 学生の基本情報(基幹システムとの連携)
 - ・ 学生個人情報、入試記録、履修記録、出席情報、成績、休退学情報、健康診断結果、奨学金情報など
 - 面接の記録
 - ・ 個人的な特記事項、コメント、所見など
- 入力主体は教職員
 - 教職員から学生へのサポート
 - 自立までを支援する

学生ポートフォリオの定義

そもそものポートフォリオとは…

- ◆ 芸術専攻の学生が作品を溜めておいて、それを任意に公開するものだった。
- ◆ 海外では学生が学習や研究するなかでさまざまなデータや情報、論文をファイルで溜め込み、自分が選んだ教員や先輩学生にそのファイルを公開してアドバイスを求める、他人にアドバイスを求められたら提示資料を参照してコメントを渡す、自分が求める情報を持つ人を探す、他人が求めている情報を提供するなどオンライン上で行うことをいう。



- 学生が必要とし学生主体のシステム
- 入力主体は学生
- 学生の相互サポートの場所
- 自分を振り返りそこから自分の将来像をデザインする環境となる

- ▶ 学生が自分自身の情報を蓄積する
- ▶ 自分の道程の振り返りの材料とする。
- ▶ 希望する人に公開して意見を求める。
- ▶ 自分が必要とする情報やアドバイスを求める。
- ▶ 他の学生に対して自分が持つ情報やアドバイスを提供する。

▶ 記録する情報は…

学生が蓄積したい情報で決まりはない

例えば…実習記録、留学経験、論文、ボランティア活動記録、学修記録、ゼミ活動記録
ブログのように書き込んでいても良い

学生ポートフォリオの定義

そもそものポートフォリオとは…

- ◆ 芸術専攻の学生が作品を溜めておいて、それを任意に公開するものだった。

- ◆ 海外で自分が求め

ポジティブシステム (学生自立支援型)

溜め込み、自
アドバイスを
て、他人が求
めて

体のシステム

- ▶ 学生が自分自身の情報を蓄積する
 - ▶ 自分の道程の振り返りの材料とする。
 - ▶ 希望する人に公開して意見を求める。
 - ▶ 自分が必要とする情報やアドバイスを求める。
 - ▶ 他の学生に対して自分が持つ情報やアドバイスを提供する。
- 学生の相互サポートの場所
 - 自分を振り返りそこから自分の将来像をデザインする環境となる
- ▶ 記録する情報は…
学生が蓄積したい情報で決まりはない
例えば…実習記録、留学経験、論文、ボランティア活動記録、学修記録、ゼミ活動記録
ブログのように書き込んでいても良い

学生カルテのメリット

▶ 大学にとって

面倒見のよさをアピールできることで入学生確保につなげられる
学生の情報が一元化・共有され、認識を統一することで標準化したサービスの提供ができる
中途退学率を下げるのに効果的で、ひいては大学のマイナスイメージにつながる要因を解消できる

▶ 学生にとって

面倒を見てもらうことで教職員に好感を持てる(名前を覚えてもらうなど)
教職員との距離が縮まる
情報共有により、たらい回しになる、何度も同じことを告げることがない

▶ 学生の父母にとって

手厚いサポートに安心感がある
特別なケアを必要とする子供の場合、それを漏れなく必要なところに伝えられる

▶ 教員にとって

ゼミなどに於いて、それまでの学生の履歴をみることで指導がし易くなる
職員が学生へおこなった指導を知った上で支援することができる

▶ 職員にとって

担当者が変わっても情報を引き継ぐことができる
教員との連携がとれ、ぶれの少ない指導ができる

学生カルテのデメリット

▶ 大学にとって

どこまでシステムに投資すべきか費用対効果が図りにくい
個人情報保護にもとづくアクセス権限の管理の複雑さが負担となる
手厚いケアにより学生の大学に対する依存度が高くなる恐れがある

▶ 学生にとって

自分の情報をいろんな人に見られているという不信感を抱く
学生自身が知られたくない情報を知られるという不安
過剰な支援によって、成長や自立が阻害される可能性がある
画一的な指導により違った側面を見出せない
入力者の主観が入ったコメントにより、レッテルを貼られてしまう可能性がある

▶ 教職員にとって

指導コメントの入力が負担になる
面接中にコメントを直接システムに入力すると、学生の目を見ながら話ができない
画一的な指導になりやすい
指導コメントをどの範囲まで記載するか個人差により迷う
他の人が記載したコメントで先入観ができてしまう

学生ポートフォリオのメリット

▶ 大学にとって

学生が社会人になったときに大学で行ってきたことをきちんとと言えることが、ひいては大学の教育成果を対外向けにアピールすることになる
学生を依存型から自立型へと促すことができる

▶ 学生にとって

自分が求める相手との情報交換や意見交換ができる。
蓄積したデータを見直すことで、足跡を確認し何ができるようになったかを客観的に見れる
大学で自分のやってきたことの価値がみつけれられる
キャリアビジョン(就職に限らない)を描くことができる

▶ 学生の父母にとって

子どもの自立を促すことができる

▶ 教職員にとって

非定型の学生個人にあったサポートができる。(定型のサポートは学生カルテの役割)
進路についてのアドバイスがしやすくなる
押し付けがましい指導ではなく、学生が求めるサポートができる

学生ポートフォリオのデメリット

▶ 大学にとって

学生カルテとの住み分けを明確に定義しないと利用目的が曖昧になり二重投資になる。
(例えば、教育実習・就職活動等への活用において)

▶ 学生にとって

使う意味を実感できるのには時間がかかるため動機付けが難しい
継続することが負担となり、途中でやめると意味がなくなる
データを蓄積するモチベーションを保つのが難しい

▶ 教員にとって

学生が教員にアドバイスを求める場合、頻度によっては負担が増加する。

▶ 職員にとって

利用目的を学生に理解・浸透させ、利用を定着させるのが難しい
学生の自主性に任せる部分が多くなると、監視の方法と監視の程度が難しい
情報交換において『2ちゃんねる』化や個人情報保護を脅かすような不適切な利用を防ぐのが難しい

学生カルテのあるべき姿(理想像)

- i. 学生の基本情報は基幹システムと連携し、漏れのない最新情報を教職員間で共有できる。
学生個人情報、入試記録、履修記録、出席情報、成績、休退学情報、健康診断結果、奨学金情報など
- ii. 面接の記録は事実の記載に留め、主観や先入観をできるだけ取り除く。
記載内容としては面接日時、面接担当者、目的、学生が述べたこと等
面接者の主観が入りやすいコメントは自由記述とせず、コメントしてあげられる事項をリスト化したものにチェックボックスをつけて、チェックを付ける程度とする。
- iii. 面接担当者が当該学生のカルテを本人と一緒に見ながら話ができる内容とする。
学生に対して管理している本人の情報を見せて、学生とも情報を共有する。
学生に何が問題なのかを認識させる。
- iv. 維持負担の少ないシステムとする。
電子化する情報を取捨選択し、紙ベースの管理を行っている情報を電子化する効果を見極め、効果の薄いものは現状の管理のままとする。
- v. 必要な人が必要な情報だけにアクセスできるシステム。
データへのアクセス権限が柔軟に設定できる。

学生ポートフォリオのあるべき姿(理想像)

- i. 利用範囲に幅がありすぎると学生はどう使えばよいのか判らないので、ある程度使い道を限定する。
キャリア形成に利用範囲を絞るなど。
キャリアデザインシートの雛形を用意し、それに入力することからはじめるなど動機付けの材料を入れておく。
- ii. 学生が蓄積する情報の形式に汎用性があること。
ファイル形式、ブログ形式など学生が残す情報を余り定型化せず、利用の自由度を与える
- iii. 蓄積する情報の信憑性や正誤は問わない。
学生の主観で情報を蓄積するので、それが正しいか否かは問題としない。
学生が自分をプラス評価できる情報を蓄積すれば良い
- iv. Can-do Listの管理ができる
学修のなかで各科目のシラバスにある到達目標をリスト化したCan-do Listを用意し、履修したことにより何ができる様になったか自分でチェックを入れていく。
- v. 学生自身が求める支援や関係が作れるコミュニケーションツールを有する
教育実習での記録をゼミ担当教員に公開してコメントを求める、学内に同じ境遇にある人を探す通知が出せる、学生相互、学生と教職員との情報の交換ができる。但し、オーダーを出すのは学生自身からとする。
- vi. 学生が楽しんで使える遊び心のあるシステムである
自分がどういう人かを語るネタを貯めておく場所
- vii. 卒業後もシステムを継続利用できる
縦横の連携を作る

期待できる学修支援への効果

学生カルテ

- ▶ 脱落しそうな学生を早い段階で手当てすることにより救うことができる可能性が増える。
- ▶ 学生生活を全うし卒業へ導く前提条件を満たすための支援ができる。
- ▶ 学生カルテの分析により学生の全体的な傾向が掴める。
- ▶ 学生カルテの分析により大学の問題が洗い出せ、FD・SDへの活用ができる。

学生ポートフォリオ

- ▶ 学生カルテでは見えてこない問題に対処できる
優秀であるが学校へ来ることが目的になってしまった学生、学生カルテ上問題は無いが目的意識を持っていない学生が目的を見出せる機会を作る
- ▶ 学生のポジティブな気持ちを大切に、モチベーションを高める
- ▶ 学生自身が自分のPDCAを意識することで、社会で必要となるスキルを身に付ける
- ▶ 自分が大学で何をやってきか社会人になってからアピールができる
- ▶ 自分の大学について語れる
- ▶ 再就職の時に大学のことを振り返って自分を再確認できる
卒業後も大学への帰属意識を保てる

現実問題

【共通】

- ▶ 新たなシステムを導入することによる負荷が高い(作業量、コスト)。
- ▶ 指針を明確化することが難しい。
- ▶ 動機付けが難しい。
- ▶ 利用者フォローに対する負担が増加する。
- ▶ 使用目的・ルールを明確にして支援する関係者への周知徹底が必要。
- ▶ まずはセキュリティポリシーが確立していなくてはならない。

【学生カルテ】

- ▶ データの一元化、常に最新のデータを参照できるようにする必要がある。
- ▶ 権限の範囲を定義するのが難しい。

【学生ポートフォリオ】

- ▶ 積極的な利用を促すことが難しい。
- ▶ 学生に与える自由度に対する管理体制が難しい。